

## ハイドランジアの促成に関する試験 摘心時期と入室時期について

後藤利幸・川田 計

(大分県温泉熱利用農業研究所)

GOTO, T. and KAWATA, K.

Studies on the Forcing of Hydrangea

On the Pinching time, and carrying time in green house

ハイドランジアは鉢物として、シクラメン、ポインセチアなどの後作に適し、施設の利用期間が短いので、今後も栽培が増加するものと思われる。花芽の分化時期は平地で10月上旬であるが、実際に栽培する場合は最終摘心時期が最も重要であり、早い時期の摘心は開花は十分であるが、莖長が伸び、おそい摘心の場合は花芽の形成が不十分となり、ブラインドの原因となる。そこで暖地における最終摘心時期の決定と促成段階における入室時期の決定を明らかにする。

### 1. 材料および方法

供試品種は Alpengluhen, Engiandom, Ave Maria ●を用い、さし木は6月中旬に行ない、発根後は3号鉢に育て、摘心は摘心時期試験では8月5日から9月16日まで10日間隔で行ない、入室時期試験では8月5日に行なった。摘心後は3本仕立とし、12月中旬4.5号鉢に移植した。入室後は15℃以上を保ち栽培管理は慣行法に

準じた。

### 2. 結果および考察

摘心時期試験の結果は第1表のとおりである。入室時の莖長は、いずれの品種もおそく摘心した程短かくなった。出らいいおよび開花期は3品種ともほぼ同様な傾向が認められた。すなわち、遅く摘心したものの程開花期が遅れ、その差は7～10日間であった。これは奈良農試の下部(1968)らの報告と一致した。開花率は品種によって異なり、Alpengluhen では9月7日, Engiandom, Ave Maria は8月25日摘心までは高かったが、9月7日以降は著しく低下した。1花当たりの小花数は3品種ともに、8月15日までは差がないが、8月25日以降の摘心では著しく減少し、特に Ave Maria は明瞭であった。3本仕立の場合、開花率、小花数や莖長などを考慮すれば、最終摘心時期は8月15日位が安全と考えられ、小花数を問題としなければ供試3品種ともに8月25日ころの

第1表 摘心時期と開花率(1月7日入室 1971)

品 種	摘 心 日	入室時の莖長 cm	入室時の節数	出蕾日	着色日		開花日	開花時の草丈 cm	開 花 率 %	1輪当り 小花数
					月 日	月 日				
Alpengluhen	8. 5	7.9	5.2	2.10	3.17	3.28	22.7	93.0	148.3	
	8.15	7.7	5.0	2.12	3.21	4. 1	21.9	86.0	139.1	
	8.25	8.0	4.8	2.13	3.20	3.31	22.2	80.0	120.0	
	9. 7	5.1	4.2	2.13	3.23	4. 2	23.5	100	127.8	
	9.16	3.1	3.4	2.20	3.29	4. 7	22.0	60.0	152.5	
Engiandom	8. 5	9.0	6.2	2. 4	3.14	3.26	22.4	100	183.0	
	8.15	9.3	6.0	2. 2	3.14	3.21	22.4	100	188.8	
	8.25	7.3	4.8	2. 7	3.14	3.27	21.4	100	145.5	
	9. 7	3.9	3.8	2.18	3.31	4. 8	19.5	50.0	250.0	
	9.16	3.0	3.5	2.10	3.31	4. 7	18.5	49.0	144.5	
Ave Maria	8. 5	5.2	5.6	2.12	3.23	4. 2	14.7	100	286.0	
	8.15	6.1	5.6	2.10	3.21	4. 6	18.8	94.0	265.0	
	8.25	4.6	4.4	2.11	3.21	4. 2	16.3	100	181.0	
	9. 7	3.4	4.4	2.10	3.25	4. 6	14.5	69.0	144.0	
	9.16	3.2	3.4	2.13	3.29	4.12	12.1	70.0	161.5	

第 2 表 入室時期と開花期との関係  
品種 Alpengluhen (1970~72)

年 次	入室月日	出 蕾 日	着色始め	開 花 日	開花時の 草 丈	開花まで の 日 数	1 輪当り の 小 花 数
年	月 日	月 日	月 日	月 日	cm	日	
1970	12. 16	2. 20	3. 19	4. 1	13.8	106	60.0
	12. 25	2. 14	3. 18	3. 30	17.0	95	104.7
1971	1. 6	2. 14	3. 20	4. 1	19.1	85	110.1
1972	1. 6	2. 4	3. 11	3. 25	22.2	78	131.7
	1. 17	2. 15	3. 22	4. 5	25.0	78	123.8
	1. 26	2. 19	3. 28	4. 7	25.8	71	108.4
	2. 8	3. 3	4. 4	4. 15	26.2	66	123.4
	2. 17	3. 9	4. 9	4. 18	27.3	60	117.3
	2. 26	3. 18	4. 17	4. 27	24.4	60	74.8
	3. 6	3. 21	4. 20	5. 2	29.3	57	102.2
	3. 16	3. 29	4. 28	5. 8	27.8	53	136.9
	3. 27	4. 7	5. 7	5. 18	26.9	52	86.3
自然	4. 16	5. 29	6. 11	23.3		95.5	

摘心でもよいものと思われる。

入室時期別の結果は第 2 表のとおりである。すなわち Alpengluhen は 12 月 16 日入室でも 1 月 6 日入室でも、開花期はほとんど変わらず、他の 2 品種も同じ傾向が認められた。また、12 月中に入室した場合は新莖長が著しく

短くなり、しかも開花が不揃いとなって品質的にも劣った。以上の結果より早期の入室開花を望むならば、株の冷蔵か冷涼地育苗が必要で、平地育苗の入室限界は 1 月上旬と思われる。